

# 平成25年度 佐賀県立唐津工業高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標
21世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。

2 学校経営ビジョン
(1) 全ての生徒が安心して学習できる学校、安全に生活できる学校にする。
(2) 教師はよくわかる授業をし、生徒は真剣な態度で授業を受ける学校にする。
(3) 生徒に夢を持たせ、夢を育み、夢の実現に向けて歩ませ、全力でサポートする。
(4) 必要な常識、規範意識(道徳心)、基礎的な知識・技術を身につけさせる。
(5) 保護者や地域との協力・連携を深め、信頼される学校にする。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1) 学校教育目標の周知と地域への情報発信	PTA総会や地区保護者会で本年度の重点目標について説明し、保護者には理解してもらえたと考える。学校PRにも努めたが入試の志願者は前年度に比べて減少した。次年度は家庭と学校の連携をさらに図り、充実した取り組みができるようにするとともに、学校PR活動をしっかり行うことで、更に志願者が増加するような取り組みが必要である。
(2) いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応	昨年は、職員の目の届きにくいところでいじめ(暴力)事案が行われていたことが発覚した。生徒たちが相談しやすい環境を整え、職員はアンテナを高めて生徒たちの状況把握に努めると同時に、生活アンケート等の定期および随時の調査を行い、いじめがあった場合には迅速に対応をする。また、心の教育の道徳と連携させた取り組みを今後とも継続する。
(3) 授業の充実、授業態度の改善	「学習状況調査表」の活用で、改善が見られているがまだ不十分である。「学習状況調査表」の取り扱いも考えながら、充実した授業が展開できるような方策を検討していく。また、教師側の授業力向上に向けた努力もさらに必要である。これまでに以上に授業態度を重視した評価をさらに周知徹底し、自覚を醸成する。
(4) 規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上	従来の問題行動による特別指導は昨年よりは減ったがいじめ問題が発生した。生徒の規範意識、モラルをしっかりと身につけさせる必要がある。服装・頭髪をはじめ、基本的な生活習慣の確立を徹底する必要がある。
(5) 進路指導の充実	就職については昨年より一次募集での内定率が下がり、多くの生徒たちが二次募集以降の試験を受けた。しかし、諦めずに進路先を探しほぼ100%の内定をもらい卒業させることができた。今年度は一次試験での内定率向上など指導の強化が必要である。進学希望者については、全ての生徒が合格できた。今後も、さらに生徒の進路意識の高揚のためにインターンシップや面談など系統的な取り組みを継続する必要がある。
(6) 校内(特に教室)の美化	生徒の美化に対する意識は向上してきたが、積極的な取り組みまではいかなかった。清潔な学習環境は、教育を行うための前提である。生徒、職員の意識を高め、学校全体で「4S」に取り組む必要がある。
(7) 資格取得への意欲の醸成と実績の向上	昨年度の実績は、一部には非常に良い結果もあったが、逆に合格率が低い資格もあった。学習意欲、進路意識の高揚などと連携させ、更に系統的な計画・指導が必要である。学校活性化の観点からも重要な課題である。
(8) 部活動の活性化、ものづくりによる「地域連携・貢献」	魅力のある部活動と、実績の向上は、生徒に誇りと自信を持たせ充実した高校生活につながる。入部率を高めて、より充実した部活動にする。さらに工業高校の特性を活かし、ものづくりに地域・社会に貢献し、地域で存在価値のある学校にする。
(9) ICT活用教育研修の推進	ICTを活用した授業展開ができるよう全職員が研修を積み、生徒の興味関心を高められる実践研究を行い、生徒の基礎学力向上、授業への意欲向上につなげる。

## 5 総括表

(1) 学校教育目標の周知と地域への情報発信					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
学校運営	○学校経営方針	学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	保護者や生徒の重点目標の周知度を70%以上に上げる。 学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と評価する保護者や生徒の割合を80%以上に上げる。	・保護者に対しては、PTA総会、地区保護者会、唐工ニュースで周知を図る。 ・重点目標を中央廊下教室に掲示したり、全校集会で説明して周知を図る。 ・学校経営ビジョン、重点目標の達成に向けて一つ一つの取り組みを徹底する。	B 学校の方針や重点目標については、保護者へはPTA総会、PTA役員会、地区保護者会など機会があるごとに、生徒へは全校集会でたびたび説明をし、ほぼ周知することができた。
		地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開	高校入試志願率の向上 (定員の1.2倍以上を確保)	・唐工ニュースやメディアなどを通じて活躍する生徒の情報を地域へ発信するとともに、体験入学、中学校ごとに行われる高校説明会等で魅力をPRする方法を改善し、積極的に行う。	B 生徒たちの活躍状況を唐工ニュースや数多くのメディアを通じて情報発信し、本校教育活動を十分PRすることができた。また、地域の催し物で小学生対象に「ものづくり教室」を実施するなど、地域との連携も十分にできた。しかし、アンケートによれば、保護者は学校のHPをあまり見ていないという結果であった。

(2) いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ問題の防止と早期発見	・いじめ問題の早期発見のためのアンケートを2ヶ月に1回実施する ・いじめ問題が発生しないための校内巡視の徹底	・いじめアンケートを2ヶ月に1回実施し、その後生徒全員に対して面談を実施し、問題の早期発見、防止につなげる。 ・いじめ問題等が発生しないよう、職員朝礼時の校内巡視、昼休みの校内巡視、ホームルームを複数の担任で実施するなど、発生しにくい環境づくりに努める。 ・ヒューマントレーニングや全校集会などで、他人を思いやる心情、自他の人権を尊重する態度を育む。	B 学校生活に関する意識調査の回数を増やしたこととその後すべての生徒への担任や副担任による面談で、生徒間の関係を知る手掛かりになっている。面談の結果や生徒からの相談で担任がいじめを覚知した場合、生徒指導部に直ちに報告し、学校組織としての迅速な調査、対応、その後の防止策の策定と実施を行うことができた。しかし、日頃の生徒の言動に教職員が注意し、根気強く注意、指導を継続しなければ、いじめは簡単に起こることを常に考えておく必要がある。

(3) 授業の充実、授業態度の改善					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	●学力向上	授業態度の改善	授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真剣な態度で受けるよう指導する。	・「学習状況調査記入簿」の活用方法を再検討し、効率よく運用できるようにする。 ・各授業中の生徒の学習状況で、指導が必要であれば厳しく対処しその都度、改善を促していく。 ・学習評価において、授業態度を大幅に重視(35%)することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。	B 「学習状況調査記入簿」の活用が上手いはず、年度途中からの運用になった。年度初めは、記入の呼びかけが徹底しなかったこともあり、記入が少なかったが、声かけをすることで多くの職員が記入するようになった。

(4) 規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	○生徒指導	頭髪・服装指導の改善	登下校はもとより、普段の身だしなみに対する意識を向上させ、さらに頭髪・服装検査合格者を昨年度より増加させる。	・3人担任制を有効に運用することにより、改善を図る。 ・頭髪・服装検査の強化及びイエローカードの活用。 ・普段の着こなしに対する新たな指導方法を確立する。	B 大半の生徒が、クラス担任や生徒指導やその他、全職員からの注意を真摯に受け止め、頭髪服装に気を配れるようになっている。
		道徳教育の推進	規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。	・年16回、10分間の「ヒューマントレーニング」を実施する。 ・予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、回収した後、担任・教務等で検証し、しっかりした意見等については中央廊下や教室に掲示する。 ・心に響く、心を揺さぶる刺激を与えるような意見は学校HPに掲載するなど、保護者にも子どもたちが考えていること紹介する。	B 「ヒューマントレーニング」を昨年より多く実施をした。生徒たちも実施した内容に関心を示して答えてくれるようになった。 しかし、登下校時や、地域からのマナーに対する苦情も多く、実際の行動につながっていないところもあった。
		ボランティア活動への積極的参加	生徒会主催の校内ボランティア活動への参加、及び各種外部団体主催のボランティアへの参加の合計数100名を目指す。	・生徒会役員の生徒に校内の小さなボランティア(あいさつ運動や清掃ボランティア)を企画させ、短時間で少人数のスマートな奉仕活動を数多く行い、学校全体に潤いを与えていくようにする。 ・毎学期学校周辺での清掃活動を実施し、唐津特別支援学校行事への参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを促す。	B 朝のあいさつ運動など、年度前半は生徒会役員による取り組みのおかげで、部活動生を中心に行うことができた。年度後半に役員が交代してからは活発な校内ボランティアはまだ軌道にのっていないと言えない。 対外ボランティアは唐津特別支援学校の行事や市の催事など、様々な活動に参加した。

(5) 進路指導の充実					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	○進路指導	進路保障	生徒が主体的に進路を選択し、卒業までに進路先が100%決定できるように指導する。	・生徒の就職・進学の希望の実現を目指して基礎学力の向上に努める。 ・会社訪問を行い、職場開拓や求人会社の情報を生徒に提供する。 ・進学希望者については、1年時から進学意志の確認と高揚に努め、基礎教科について個別指導を行う。	B 目標よりやや低いものの、初回の就職試験での内定率は75%と昨年に比べてかなりアップすることが出来た。ただ、9月に入っても受験先の企業を決めることが出来ない生徒が9名いた。このことは、日ごろより積み重ねていくべき進路意識の啓発が足りなかった。昨年以上に、生徒・保護者に情報提供を心がけたが効果的に伝達できなかった。次年度は改善工夫が必要であると判断している。

(6) 校内(特に教室)の美化					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	○環境整備	校内の美化、環境問題に対する意識の啓蒙、施設の安全点検	職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるようにする。ゴミの減量化と資源物(紙類)の回収を実施する。安全点検を実施し、必要な対策を行う。	・“4Sの実行(整理・整頓・清掃・清潔)”の張り紙を掲示する。 ・教室の校内美化点検を毎週末行い、結果を担任へ報告する。 ・授業の始まりに、机の整列・バッグ類の整頓・塵拾いを実施する。 ・ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)を回収し、環境に配慮する。 ・毎月、各点検箇所の責任者が安全点検を実施し、報告する。	B 掃除の時間に音楽を放送することで、生徒の掃除への取りかかりが改善された。ごみの量が以前に比べて減少しているが、各掃除区域から出されるゴミの分別が不十分である。週末に生徒保健委員による教室の美化点検を行っているが、ゴミが散乱していたり、整理整頓が不十分な教室がある。

(7) 資格取得への意欲の醸成と実績の向上					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	●学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	学力が低い生徒には、確かな基礎学力を身につけさせる。また、出口である3年生の就職試験は1回目の試験で希望通りの合格が出来るようにする。	・一昨年から実施した「数学会」は、入学直後より取り組んだため、学習意欲の改善につながった。今年度も数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日3名ずつの輪番にて1学期間中補習指導を行い、分ける授業へ結びつける。 ・進路指導部とも連携し、特に3年生については昨年度の指導形態を踏まえ、基礎学力をより一層定着させ、就職試験は一次試験で合格できるよう全職員で取り組むよう計画する。	B 「数学会」は基礎学力の向上に、大いに役立っていると思うが、今年度の生徒は、なかなか乗ってこない生徒もおり、指導に苦慮した面もある。朝の小テストとともに、短時間でも勉強する習慣をつけさせるようにしなければならない。
		資格取得の推進	資格試験の合格率を前年度より10%アップする。	・「資格試験ハンドブック」を有効に活用し、各自が卒業までに取得を希望する資格を決めさせる。 ・資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を掲示するなどして、意識の向上を図る。	B 「資格試験ハンドブック」は生徒や保護者にとって有効な情報源になっている。そのため、受験者は例年同様に多かった。一部の資格試験では、多くの合格者を出した。危険物試験においては合格率向上のため、丙種も受検させ合格者を出すことが出来た。ジュニアマイスター認定総数は昨年と比べると増えた。

(8) 部活動の活性化、ものづくりによる「地域連携・貢献」					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	○特別活動	部活動の活性化	部活動への加入を奨励する。加入率を前年度より増加させ、活動の活性化を図る。	・入学式、PTA総会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を奨励し、1年生の入部率を向上させる。 ・とくに1年生については3日間の体験入部、および1学期間の全員加入を経て、部活動の魅力味わわせ、充実した学校生活に役立たせる。 ・部活動の活動状況を学校だよりやHPに積極的に掲載し、校外に積極的にPRする。	B 3日間の体験入部や看板での入部アピールなど、1年生全体に対する入部への働きかけはできたと思うが、入部後については各部の活動状況や顧問の指導量、指導員などが違うため、1学期間高いモチベーションを維持させることや入部率を高く保つことは難しい。
教育活動	○地域連携・貢献	ものづくりによる「地域連携・貢献」	「ものづくり」を通して地域に貢献する。	・地域イベントに参加し、地域に貢献できる製作テーマを見つける。 ・地域から依頼された物を製作する。 ・地元のイベントでもものづくりの体験をしてもらう。	A 建築科では玄海町及び唐津市役所・厳木支所から依頼された製品を製作し寄贈した。また、課題研究で地域と連携した取組も行った。電気科では大型イルミネーションを製作し唐津駅に展示をした。さらには、鬼塚公民館で毎年行われている鬼塚まつりでは、全科とも製作体験教室を行った。

(9) ICT活用教育の推進					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	●ICT活用教育の推進	ICT活用教育研修の推進	校内研修を通じ、電子黒板の有効利用について検討し、授業改善に取り組む。	・パワーポイントの有効利用および書画カメラの利用について校内研修を行い、電子黒板の積極的な利用を図る。 ・教材作成について研修を行い、教材作成の効率化及びわかりやすい授業の実現を図る。	B 校内研修は十分行うことができた。書画カメラまたはパワーポイントを授業で利用する教員が増えた。インターネットの記事・画像を見せる。教科書をPDFにして生徒に注視させる等の利用は広がっており、生徒達の理解も深まっていると思われる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由
教育活動	●健康・体づくり	健康の自己管理能力向上の推進	保健指導を充実させ、受診率の向上を図る。	・健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。 ・歯科・視力に関する保健指導を実施し、自己管理への意識付けを行う。	B 年度当初の生徒健康診断や健康調査を実施することで、生活習慣の大切さ、運動、休養、健康に関する意識付けをしてきた。少人数に対する歯科、視力などの再検査、指導に一定の効果が見られた。検診結果を生徒・保護者に示した後の再受診が十分でなかった。

**6 総合評価**  
 今年度の取り組みで特に力を入れたことは「いじめ問題の防止と早期発見」である。昨年度の反省を踏まえ、年度当初に「いじめ校内調査委員会」を立ち上げた。いじめアンケートを学期に2回実施し、その後担任や副担任により全員の生徒と面談を実施し、その後調査委員会で対応を検討した。まだまだ、十分とはいえないが、効果はあったと判断している。今後も日頃の生徒の言動にさらに注意をし、根気強く注意、指導を継続しなければならない。また、「心の教育」にも力を入れて取り組み、「ヒューマントレーニング」は3年目を迎え、生徒に「考える機会」を与え、規範意識の高揚に効果が出てきている。さらに、生徒会を中心とした「ボランティア活動」や「あいさつ運動」など、新しい取組も行った結果、地域からも「生徒がよくあいさつしてくれる」との声もいただくようになった。今年度から課題研究で地域の独居老人家庭の簡単な補修も実施した。また、地域の催し物で小学生対象に「ものづくり教室」を実施するなど、地域との連携も十分にできた。授業態度の改善については、学習評価において授業態度を重視することを生徒や保護者に周知徹底し、評価方法は伝わっている。生徒の授業に対する評価は高かったが、課題も残った。進路指導面では、就職支援員の協力も得ながら企業訪問や職場開拓など活発な活動を展開することが出来た。その結果、男子生徒は全員(女子が1名未定)の進路が決定した。1年生の全員部活動入部については、1学期の入部率は高くなったが、定着率は今ひとつであった。生徒会活動では、カウントダウン表示を自作するなど、活動が活発になり、部活動の成績の向上にもつながった。さらに、掃除の時間に生徒会が音楽を流すなど、工夫した取組が出来た。「ものづくりによる地域貢献」については、建築科の模型製作や電気科の唐津曳山イルミネーションの唐津駅展示など、地域との連携や地域貢献活動ができた。また、これらの活動を積極的にマスコミに情報発信し、学校PRにもつなげることができた。

**7 来年度の課題**  
 工業高校ならではの「ものづくりによる地域・社会貢献」の取り組みをとおして、学校をPRし、入学志願者を多く確保することは、来年度も今年度同様しっかりと取り組まなければならない。また、「ヒューマントレーニング」「ボランティア活動」「あいさつ運動」等は、本校の「こころの教育」を推進するためには、続けていかなければならない取り組みである。一方、生徒指導面での取り組みにおいては、生徒指導部や担任だけでなく、すべての職員がすべての場面で共通認識を持って指導するという体制をさらに強化していかなければならない。授業改善については、「生徒による授業アンケート」として実施した結果、生徒の評価は良かったが、客観的に見てさらなる改善が必要な状況である。教師側もさらに授業力向上に努め、「興味を引く、わかりやすい授業」としていくことはもちろんであるが、学習者用PCの利用などスキルアップが求められる。また、資格取得の推進については、進路実現の面からも重要であるが、生徒のさらなる意欲醸成、家庭の経済的負担減のためにも、合格率をあげなければならない。奨励する資格の厳選や、指導方法の工夫など、指導する側の体制の見直しも必要である。部活動については、1年生全員入部を継続し、さらに入部率を向上させ、活動を活発にすることにより、生徒自身の心身の鍛錬、人間性の成長、学校のPRにもつなげていきたい。生徒の夢を実現し、保護者や地域から信頼される学校づくりを行うためには、全職員が一丸となり、さらに熱意をもって粘り強く取り組んでいかねばならない。

●は共通評価項目、○は独自評価項目